

南白亀川親水公園あずまや

千葉県長生郡白子町総務課 主幹 牧野 悟

1. はじめに

白子町は、千葉県九十九里平野の南部に位置し、東部は九十九里浜で白砂青松の景観を呈する砂浜と松林が続き、雄大な太平洋に臨んでいます。東京から70km、千葉市から35kmの距離にあり、東西5.7km、南北6.3km、面積27.46km²のほとんどがほぼ平坦な水田地帯で、温暖な気候と温泉やシロチドリ、ハマヒルガオ等の希少な動植物が生息する自然豊かな地域です。

現在は「テニスの町」として知られ、本年9月に千葉県で開催される“ゆめ半島千葉国体”では、ソフトテニスとホッケー競技の会場地に決定され、選手・関係者を歓迎する準備を進めています。

また、テニス競技については、学生の合宿や数多くの大会が開催され、全国大会開催地としての位置付けが定着しています。年間を通し小学生からシニアまで多くの方で賑わいをみせ、豊かな自然を活かした農業と、国内有数のテニスコートや温泉を持つスポーツ・リゾートの町です。



白子町の東部（九十九里浜）
— 中央を流れる南白亀川 —

2. 水辺施設の整備

今回、水辺施設を設置した南白亀川（なばきがわ）親水公園は、太平洋に注ぐ白子町の中央を流れる2級河川、南白亀川の河川整備にあわせて、平成18年度に整備されました。南白亀川とは、平安の昔に白い亀が南方から白蛇を背にして海岸に渡来し、その白蛇が御神体として祀られたという伝説の南白亀様（現在の白子神社）の前を流れているによるものとされています。

南白亀川では、この地域の正月料理に欠くことのできない食材である青のりが古くから養殖栽培され、冬になると川面での青のり漁の風情と伝統が受け継がれています。また、自然に親しみながら川を大切にする心を育もうと始まった「南白亀川イカダのぼり大会」も夏の風物詩となっています。



南白亀川イカダのぼり大会

今年で第16回を迎える大会は、平坦な九十九里平野を流れる川の特徴を活かし、満潮時に海水が川へ逆流する現象を利用して、河口から上流へと川をさかのぼる、全国でもめずらしい川のぼりレースです。

毎年7月に開催され、参加者が工夫を凝らして作った自慢の手づくりイカダは見るのも楽しく、近隣の市町村から多くのエントリーがあります。また県外からのチームや本町の姉妹都市である長野県小谷村からも参加があり、今年は7月18日に開催が予定されています。



遊歩道の桜並木

河川整備された堤防天端は、遊歩道として利用され、地域の人々にはウォーキングコースとして親しまれています。休憩施設やイベントの活動拠点となる施設がないため、憩いの場としてあずまやの設置を、(財)リバーフロント整備センターが(財)日本宝くじ協会の助成を受けて行っている「水辺施設の設置事業」として整備していただきました。



あずまやの前で展開されるイカダレース

3. 施設説明

水辺施設「あずまや」は、先に紹介しましたイカダのぼり大会のスタート地点となっている、河口左岸に整備された南白亀川親水公園の駐車場内に設置され、南白亀川の流れを望むことができます。

海に近いことから、潮風による腐食対策として、焼杉の肌目のコンクリート擬木を使用した、高さ3.3m、広さ10.4㎡の平屋建で、横幅5.6m、縦幅5mの六角形の形状をした屋根は、軽量でありながら耐久性にすぐれたアスファルトシングル葺きとして、鋼材部には錆止め塗装が施されています。

また、あずまや内に配した、コンクリート擬木のテーブルセット1組と平板ベンチ3脚についても、皮むき丸太の肌目を使用し、自然や風土と調和するよう配慮しました。



水辺施設 南白亀川親水公園あずまや

4. 整備効果

「南白亀川親水公園あずまや」は春には桜、夏はイカダのぼり大会、冬には町特産の青のり漁が行われ、四季折々の景色が楽しめる南白亀川遊歩道の休憩施設、また、地域の人々や釣り人の憩いの場として多くの人々に利用されています。

水辺施設が設置されたことで、秋にはコスモス、春は菜の花等の草花が植栽され、南白亀川親水公園内の美化活動も盛んに行われるようになりました。



南白亀川親水公園あずまや

白子町では、「あずまや」を設置していただいたことに感謝しながら、今後もイカダのぼり大会のような各種イベントの拠点として活用するとともに、より多くの人々に親しまれるよう、施設の維持管理に努めてまいります。



春の南白亀川親水公園あずまや